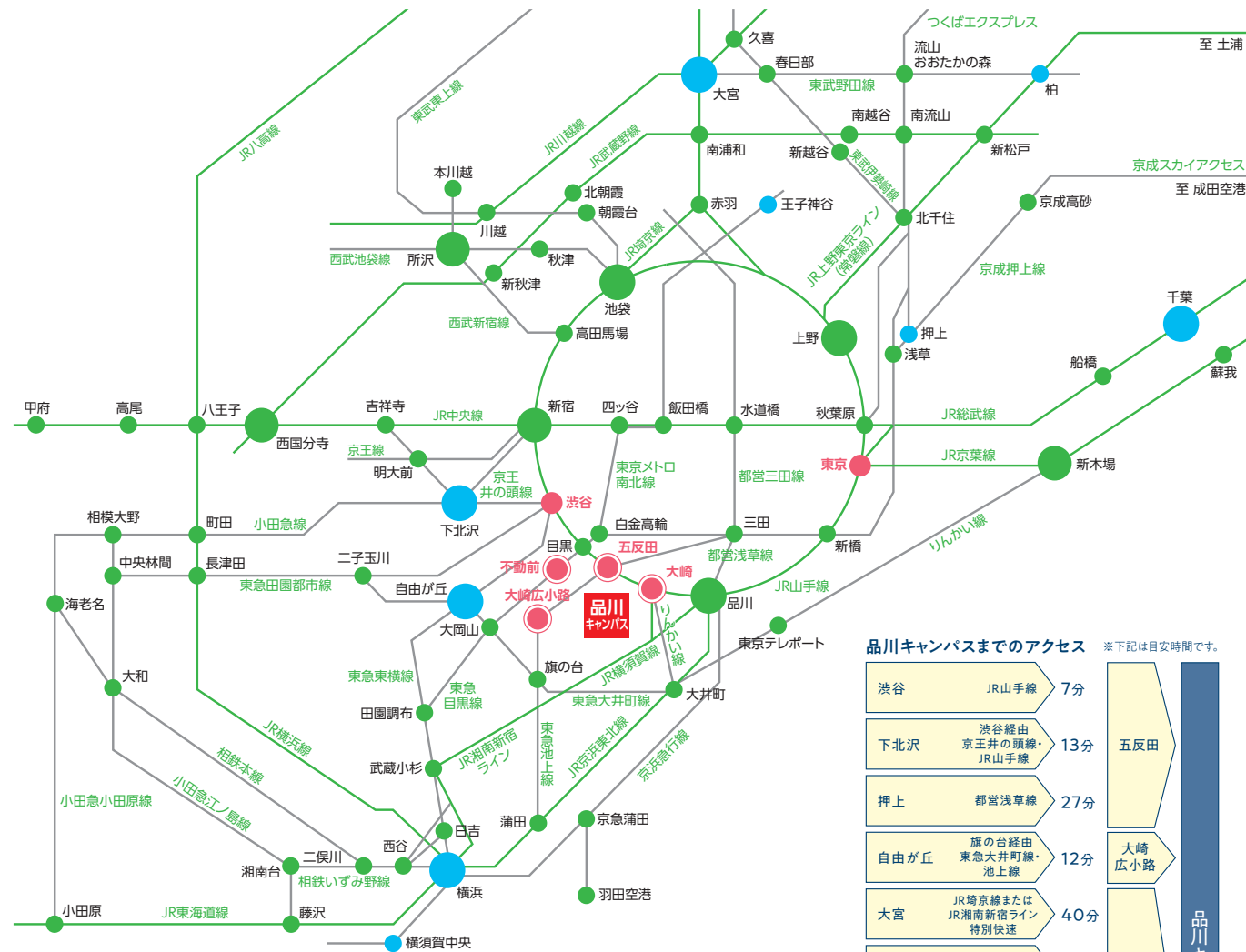


Access Map

[アクセスマップ]

副都心・大崎と庶民的な五反田、異なる顔を持つ街に生まれ、交通の便利さ、充実した施設、環境の良さ、どれも兼ね備えているのが品川キャンパスの魅力です。



品川キャンパスまでのアクセス ※下記は目安時間です。

渋谷	JR山手線	7分	五反田
下北沢	渋谷経由 京王井の頭線・ JR山手線	13分	
押上	都営浅草線	27分	
自由が丘	旗の台経由 東急大井町線・ 池上線	12分	大崎 広小路
大宮	JR埼京線または JR湘南新宿ライン 特別快速	40分	大崎
横浜	JR湘南新宿 ライン快速	17分	
千葉	品川経由 JR総武線快速・ JR山手線	50分	
横須賀中央	品川経由 京浜急行線・ JR山手線	46分	不動前
柏	上野経由 JR上野東京ライン(常磐線)・ JR山手線	54分	
日吉	東急目黒線	21分	
王子神谷	東京メトロ南北線・ 東急目黒線	35分	

おまけ 実はやさしい「法学」のハナシ
https://www.univpress.co.jp/university/rissho_law/



立正大学
「モラリスト×エキスパート」を育む。

〒141-8602 東京都品川区大崎 4-2-16
 [立正大学入試センター]
 TEL.03-3492-6649 FAX.03-5487-3347 E-mail exa@ris.ac.jp
 [法学部事務室] TEL.03-3492-3183
 [立正大学ホームページ] <https://www.ris.ac.jp/>

お問い合わせ先

法学部ホームページ
<https://law.ris.ac.jp/>



立正大学
「モラリスト×エキスパート」を育む。

法学部

2026



**Faculty
of
Law**



「モラリスト×エキスパート」を育む。

法学部法学学科は、その学士課程教育プログラム（正課外のものも含む）を通じ、

持続可能でより良い豊かな平和社会を築くための芯となる、

法学分野における「モラリスト×エキスパート」を養成することを教育の目標とします。



課題に対する鋭い
問題意識を身につけよう。

Profile

はやかわ まこと
法学部長 早川 誠

1968年生まれ。東京大学大学院法学政治学研究科博士課程修了。博士（法学）。2000年より立正大学法学部で教鞭をとり、2022年4月より現職。品川区総合戦略推進委員会委員長、日本学術会議会員なども務める。

高校生の皆さんが抱く、法学部の学びとはどんなイメージでしょうか。六法全書に書かれた条文をひたすら暗記する、というような厳格で難解な印象があるかもしれません。

確かに、法律の知識を正しく理解することは大切です。しかし、「法律の知識を正しく理解する」ということは、条文を正確に暗記するということではありません。法律は、異なる主張がぶつかり合うときに必要になります。互いの主張・理由を聞き取り、公平な解決に導くためには、単に条文を暗記するだけではなく、その法律の意味を深く理解していなければなりません。法律の背景をなす国際感覚や人権意識、社会問題に対する高い感度を備えることも求められます。

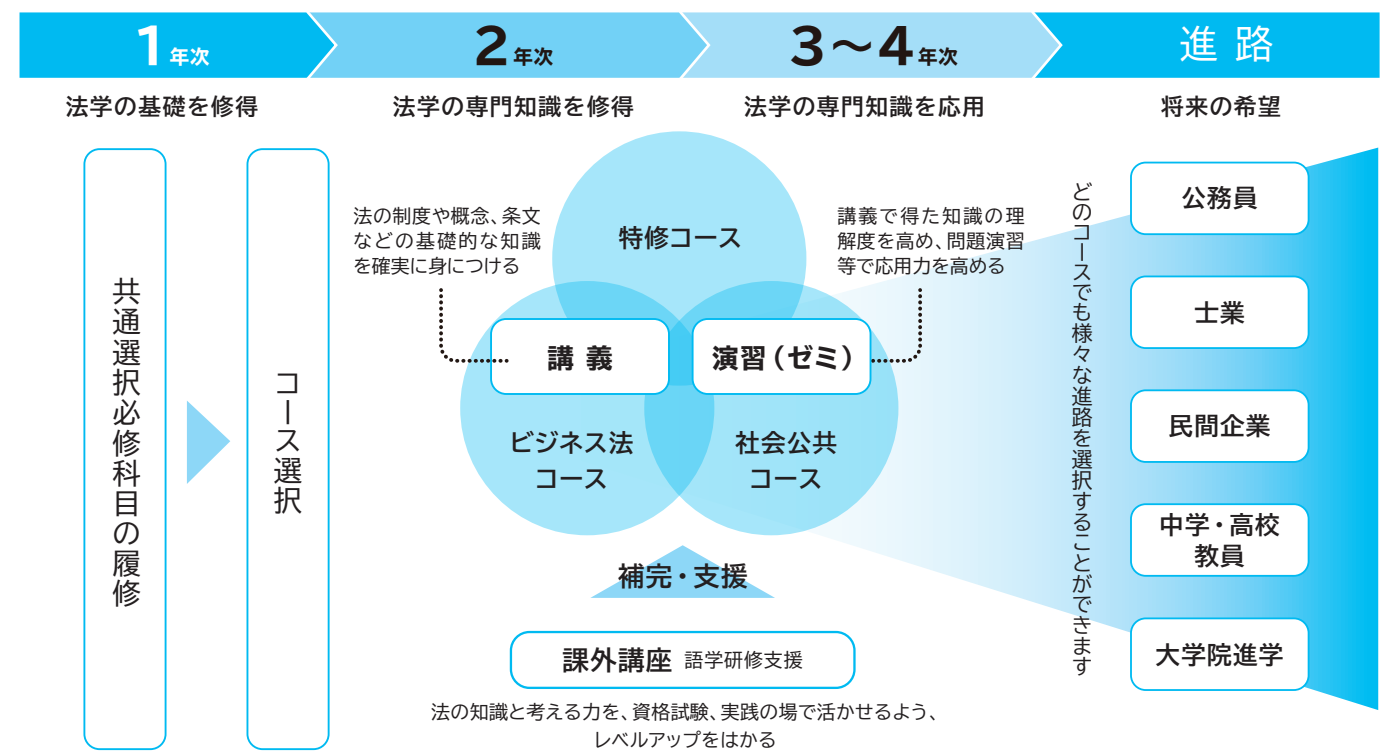
立正大学法学部では、**2023年4月から新しいカリキュラム**

がスタートしました。新カリキュラムでは、**徹底した少人数教育**とそこから生ずる**教員と学生との厚い信頼関係**、東京の地の利を活かした**フィールドワークや実務家による教育**といった、従来の立正大学法学部の優れた特色を活かしつつ、**現代的な問題に即した新しい科目**も設けました。私たちは、社会的な課題に対する鋭い問題意識を持ち、幅広い専門知識を有する学生の育成を進めています。

社会問題の多くは、簡単に解決できるものではありません。それでも、解決に役立つ知識や経験を身につける環境を、私たちは用意しています。「社会をよくしたい」という志を持つ皆さんと、共に学び合えることを期待しています。

立正大学法学部の入学者受け入れの方針

アドミッション・ポリシーについて、詳しくはホームページをご覧ください。



学生の志向に合わせた3コース制

立正大学法学部には、特徴ある3つのコースが設けられています。入学後に基礎的な法律を学んだうえで、**1年次の12～1月ごろにコースを選択**します。したがって、入学時に自分の将来の進路が明確に定まっていなくても、**大学生生活の中での出会いや経験を踏まえたうえで、自身の志向や将来の進路を見据えて、コースを選択**することが可能です。

社会公共コース

国や地方自治体の運営において必要とされる法律知識を修得し、それを応用して公的なフィールドで活躍することを目標とする学生に向けたコース。公務員や行政書士、税理士などの士業を志す学生と最適です。また、中学校・高校の教員やNPO職員として必要となる知識を効率的に修得できます。

ビジネス法コース

契約、財産、会社や労働問題など、市民生活を営む上で不可欠な法的知識を修得し、それを応用して民間フィールドで活躍することを目標とする学生に向けたコース。民間企業への就職だけでなく、起業を志す学生や司法書士、社会保険労務士など、企業活動に関わる法律専門家に必要とされる知識も効率的に修得できます。

特修コース

立正大学法学部の強みとする「教員と学生、学生と学生の距離の近さ」を最大限生かした、少人数、双方向のスタイルで実施される講義が集中しているコース。特定の進路を意識したコースというよりは、その授業形式が特徴的です。学生同士のディスカッションなどを通し、多様な価値観やバランス感覚を修得できます。

※各コースの特徴に合わせて設定されているいくつかの科目を履修することが求められますが、**どのコースに所属していても、法学部開講のほとんどすべての科目を履修することができます。**

2026年度入試 ポイント！

総合型選抜〔探究実践型〕の募集定員が15名に拡大します！

あらかじめ提示されたテーマについて、複数の受験生が話し合いながら、ひとつの解決策を導く過程を評価する入試です。受験生は、試験当日、事前に調べてきた資料を見ながら議論に参加します。

評価のポイントは、議論に対する「姿勢」です。必ずしもリーダーとして議論をまとめる者や鋭い意見を述べる者だけが高い評価を得るわけではなく、議論に参加する者全員が各自の役割を見出し、議論を深化させる過程が認められる場合には、全員に高い評価が与えられることもあります。

なお、総合型選抜〔活動評価型〕も引き続き実施します（定員40名）。

公募制推薦選抜〔基礎学力テスト型〕が始まります！

詳細は入学試験要項をご覧ください。



法学部ピックアップ授業①

「犯罪学」

犯罪が起こる背景を学び、未然に防ぐ方法を探る



やまなし こうき
山梨 光貴 専任講師

2024年より現職。博士（法学）。専門分野は犯罪学、主に犯罪者の社会復帰支援を研究。講義では犯罪学と少年法を担当。主要論文として、「重要な他者－関係性の構築と犯罪からの離脱」等。

Profile

犯罪をおかすのは、 どこにでもいる普通の人たち

犯罪学という学びの最大の特徴は、様々な学問分野の視点から犯罪について考察することができる点にあります。たとえば、生物学や心理学の観点から犯罪をする個人について深く探り、社会学の観点から貧困や格差などの社会問題を考慮しながら犯罪の原因を探ります。もちろん、刑法や刑事訴訟法をはじめとする法律の知識は必要になりますが、それだけにとどまらず、幅広い学問分野に触れることができるという点で、私たちの知的好奇心を刺激してやまない学問なのです。

ところで、犯罪学という言葉を見聞きして多くの人が期待するのは、もしかすると、サイコパスといった言葉で連想されるような、「何を考えているのかわからない異常な（私たちとは異なる）人間」からの身の守り方の解明、などかもしれません。しかし、実際はそうではありません。

人が「犯罪をおかそう」という動機を形成するまでのプロセスには、貧困や孤独のほか、家族や友人とのコミュニケーションなどが影響していることがよく知られています。生物学や心理学においても、たとえば、家庭環境や社会環境が、脳の構造やパーソナリティの形成に一定の影響を与えることが広く認められています。

ここで重要なのは、犯罪の動機が形成されるプロセスは、決して未知のものではなく、家庭環境や社会環境という、私たちにとっても身近なものに影響されるということです。ということは、犯罪をする人の大半は、「何を考えているのかわからない異常な（私たちとは異なる）人間」ではなく、私たちとなんら変わりのない人々なのです。

犯罪学では、「私たちと同じようにこの社会で生活を送っている人たちが」犯罪に手を染めるに至るまでの様々な道のりを研究しながら、そのプロセスが生じないようにするための対策を検討していくことになります。

偏見のない「まなざし」で、真摯に犯罪について考える

犯罪をおかす人を「何を考えているのかわからない異常な（私たちとは異なる）人間」と決めつけてしまう姿勢は、「犯罪者はできるだけ長く刑務所に入れるべきだ!」、「死刑にすればいい!」、「少年法は廃止すべきだ!」などという、厳罰化の主張と結びつきやすいものです。そのこと自体の是非はいったん置いておくにしても、犯罪の発生を阻止しようという観点からは、厳罰化はあまり支持できません。なぜなら、厳罰化によって犯罪が減るということを示す科学的な根拠に乏しいからです。むしろ、厳罰化は、刑罰を受けて罪を償い、社会復帰に向けて頑張ろうとしている人たちの意欲を、様々な角度から打ち砕く効果をもっていることが、多くの調査結果から明らかにされています。

犯罪という社会課題を解決するためには、犯罪の動機が形成されるプロセスに家庭環境や社会環境が影響していることにこそ着目すべきです。実際に、犯罪対策と貧困対策を一体のものとし、福祉政策や教育政策の充実を通じて犯罪を減らそうとする試みは、世界中で数多く行われています。日本でも、犯罪対策は、国や警察だけでなく、市役所や都道府県庁で扱われる業務のひとつになっています。

もちろん、「犯罪」について考える以上、刑法や刑事訴訟法の解釈・運用をある程度理解しておく必要があります。条文や人権思想を手掛かりに「あるべき論」を追求することも重要です。しかし、



「あるべき論」だけでは、真に有効な対策を打ち出すことはできません。まして、「決めつけ」や「思い込み」から、有効な対策が生まれることなど、決してありません。犯罪学を通じて、犯罪に対する、自分自身の「まなざし」（犯罪の捉え方）を濁らせないようにすることが、まずは何よりも大切です。

誰もが安全で安心して暮らせる社会を実現するために必要な「まなざし」を、一緒に身につけてみませんか？



犯罪抑止に直結する具体的な考え方や 手段を学び、将来の仕事に活かす

警察官を目指しているのでこの授業を選択しました。先生が必ずA4のまとめレジュメを作成し、前回の授業の復習もしてくださったので知識が定着しやすかったです。特に印象に残ったのは、犯罪が起こる一因になる、ラベリング論とアノミー理論についてです。ラベリング論は、周りから「あなたは犯罪者だよ」とか「あなたはこうして生きていくしかないよ」などのレッテルが貼られると犯罪をおかしやすいという考え方、アノミー理論は、将来の目標がある子でも、例えばそもそも通える学校や十分なお金がないなどで、その目標に向かう手段がないと、どうしても犯罪をおかしがちだ、という理論です。とても説得力があると感じ、犯罪抑止には環境整備が不可欠なのだと理解できました。将来は、地域防犯などの場面で効果的にこうした知識を活かしていきたいです。





法学部ピックアップ授業②

(士業実務・国会議員秘書・矯正保護実務・公務員実務・民間企業)

「フィールドワーク」

座学だけでは学べない 実務経験を積む

「フィールドワーク」は、学生が行政機関や自治体(市町村)、企業等に出向いて実際の仕事を体験し、現場で法学の知識がどう活かされているのかを学ぶために設けられました。3年次以降を対象とした授業です。学生たちは実地研修に参加することで、例えば国、区市町村の各レベルで求められる詳細な公務内容や公務の進め方、公務員の役割や求められる基礎知識などを学ぶことができます。もちろん、一社会人としての基礎的なビジネスマナーも身につけることができます。上の写真は、民間企業フィールドワークの授業で、東京駅で実習を行った時の様子です。菓子やお土産店舗のリサーチ、販売動向や顧客のニーズ調査のほか、企業が抱える課題を探し解決策を学生が提案することもあります。また、羽田空港や品



にしたに ひさのり
西谷 尚徳 教授

1982年生まれ。修士(教育学)。プロ野球選手、高等学校(国語科)講師、大学講師を経て、2025年4月より現職。1年生には文章表現を、2年生以上にはゼミナールやフィールドワークを担当している。

Profile

川駅といった、旅行や移動時の拠点となる場所でツアーや研修に参加することができます。実地で学んだことは、卒業後に販売業や営業職などの仕事に就くことで役立てることができます。

さらに農林水産省関東農政局東京都拠点や品川区教育総合支援センターとの連携を活かし、公務員の実務や教育関連公務を経験するフィールドワークもあります。実際に自治体の公務の一部を体験し、公務員となる将来をより具体的にイメージすることができます。

学生のうちに、フィールドワークという形で実際の職場を体験することで、社会人としてのあり方や行政の役割について学んだり、将来、自分がどのような立場で社会と関わっていきたいかを考える良い機会になります。

フィールドで出会う人々からも 多くの刺激を受ける授業

就職先 スペラネクス株式会社

3年次に「公務員実務フィールドワーク」、4年次に「民間企業フィールドワーク」の授業を履修しました。3年次は行政がサポートしている不登校児童支援施設で小学生と一緒に過ごし、4年次は東京駅のお土産売場の実地見学などに参加しました。どちらも大学の教室では経験できない人々とのコミュニケーションの機会があり、自身の価値観や視野の狭さを見直すきっかけになりました。社会に出ると、正解のない問題に多く接すると思います。フィールドワークでは、現場で何が起っていて何を求められているのか、自分で「こたえ」を導く場面が多々ありました。この経験は社会に出てからも役立つと感じました。フィールドワークは、座学中心と考えられがちな法学部の中でも活動的になれる、貴重な授業です。



法学部ピックアップ授業③

「基礎ゼミナールI・II」

演習や研究発表を重ね、 自らの学修目標を見つける

基礎ゼミナールI・IIは、初年次教育の一環として行われる、クラス担任制の少人数授業です。大学の学修では、「正解のない問題」にたくさん出会います。そうした問題に取り組むには、みずから考え、調べ、発信し、議論する力が求められます。これらの力を身につけるためには、何度も“実践”を重ねることが重要です。この授業では、法律文書の作成演習やグループでの研究発表、それらに対する教員のフィードバックを繰り返すことで、「文献を読む力」「適切なデータを収集し分析する力」「資料を作成し伝える力」という、法学学修で特に必要なアカデミック・スキルの修得を目指します。

演習や研究発表では、受講生間の対話の機会を大切にしています。入学当初は学業のみならず人間関係の構築に不安があるか



おかざき
岡崎 まゆみ 教授

2025年より現職。博士(法学)。専門分野は東アジア近代法史、主に戦前日本の植民地法を研究。2年次の講義では日本法史・アジア法等を担当。著書『植民地朝鮮の裁判所』で2021年アジア法学会賞(研究奨励賞)受賞。

Profile

もしれませんが、1クラス20～25名程で編成される本授業では、ともに学ぶ仲間との親睦を深めることができます。同時に、学生に対する教員の問いかけも重視しています。教員からの「正解のない」問いかけに最初は困惑する学生も多いですが、1年間かけて段階的に演習・研究発表のトレーニングを重ねるうちに、「法律のココが気になる!」「この分野の法律が好き!」と、その人らしい学修目標を見つられるようになります。

本学法学部は、専門分野に特化したゼミナール(演習型授業)が“2年次”から始まる点が特徴です。自分が学びたい専門分野の学修・研究に2年次からスムーズに移行できるよう、基礎ゼミナールは「学修・研究のための体力づくりの場」としての意味も持っています。

法的視点や論理的思考の 基礎が身に付く

基礎ゼミナールでは、実際にレポートを作成する過程を通して、資料の探し方、情報源の信憑性、引用文献の扱い方などを学ぶことができます。1年次に必ず履修する科目なので、この授業を通じてお互いに大学生活を助け合える仲間もでき、ありがたかったです。ディスカッションの機会もたくさんありました。先生が適切にフォローをしてくださったので、回数を重ねるうちに皆が活発に意見を言い合えるようになりました。講義では、法学の基礎知識やそれらを応用した事例の考察、時事問題などを取り上げ「争点は何か」「どうすれば防ぐことができるか」といった点を話し合うので、法的な視点や論理的に考える力が鍛えられました。与えられた課題をただこなすのではなく、楽しみながら主体的に取り組むことができる授業です。



法学部の4年間を先輩たちはどのように過ごしたのでしょうか。
新たな未来に向かって一步を踏み出した先輩たちからのメッセージを紹介します。

公務員



少しでも興味のある職種は、 迷わず試験を受けました

就職先 総務省

入学時は“安定した職種だから”という理由で公務員を目指していました。しかし行政法や民法を学び、「刑事政策」の授業で犯罪をする人の立場に立って考えたり、経済法ゼミで独占禁止法について知見を広めたりするうち、公務員の仕事はとても多岐にわたるのだと感じました。そのため、就職試験も絞り込みすぎずに幅広く受け、県庁や国税専門官、裁判所などからも内定をいただきました。最終的に総務省を選んだのは、それら全ての業務に通じる体験ができると考えたからです。また、もともと人前で話すのが苦手だったので、大学時代は接客のアルバイトにも力を入れ、対話能力を向上させるように努力しました。丁寧な話し方や言葉選びにこだわった経験は、就職試験の面接対策にもなりました。

ゼミ活動に力を入れたおかげで やりがいある仕事に就けました

就職先 厚生労働省

2年次から始まるゼミが魅力で立正大学に入学し、刑事学ゼミでの活動に力を入れました。特に他大学との合同ゼミで取り上げた「福祉サポートが必要な犯罪者をどう支援するか」というテーマを掘り下げるうちに、自分の本当の興味関心に気付くことができました。この問題は刑罰か福祉かのどちらかに解決をゆだねがちですが、双方が一緒に解決策を探す姿勢が大切だと思います。就職先に厚生労働省を選んだのも、国という大きな枠組みの中で、こうした方の就職支援に携わりたいと考えたからです。また、「政治学原論」の講義では、様々な意見を鵜呑みにするのではなく、自分なりに考え、意見を他者と交換する大切さを学びました。この4年間で得た知識を犯罪の予防や更生に活かしていきたいです。

公務員



公務員



大学で初めて学ぶ楽しさを知り、 生涯の友人にも出会えました

就職先 東京地方検察庁

高校時代のアルバイト先で長時間労働があるなど、労働環境に疑問を感じ、法律を調べた経験から、その大切さや面白さに気がつきました。ただ、当時は希望進路がはっきりしていなかったため、漠然と公務員を目指そうと法学部を選びました。大学では、高校までとは異なり自分の興味のある授業を選択できます。ここで初めて知的好奇心を満たす楽しさ、知識を吸収する意義を知ることができ、行政書士の資格も取得しました。1年次の「基礎ゼミナール」で共に公務員を目指す友人と出会い、切磋琢磨しながら就職活動に取り組めたことも大きな励みになりました。今後は東京地方検察庁で、検察官の仕事のサポートをする検察事務官として働きます。社会人になってもまだまだ学び続けていきたいです。

公務員



世界と肩を並べる都市で、 環境に携わる仕事をしたいです

就職先 東京都庁

東日本大震災で、津波の影響を受けて近隣の住宅が倒壊しました。このとき、堤防など、普段は意識しないけれど、自分たちの生活を守っている大切な仕組みがあることを知り、公務員の仕事に興味を持ちました。公務員を目指すにあたり、他大学に比べてあらゆる対策が充実していたので、立正大学を選びました。資格試験や公務員試験の対策講座、ゼミの先生のサポートなどをできるだけ活用し、2年次に行政書士の資格を取りました。この4年間、学んだ法律の知識をどのように社会に還元すべきか、ということはずっと考えていました。行政法と環境法を扱うゼミでの活動を通して、特に都市の環境問題の解決に携わりたいと思うようになり、東京都への就職を決めました。東京都は、世界の大都市と肩を並べる大きな組織で、先進的な取り組みも行っています。世界に恥じない、環境を意識した都市開発などを行っていきたいです。

自分の挑戦を後押しする環境で 自治体の種々の仕事を体験しました

就職先 千葉県庁

公務員を目指したきっかけは東日本大震災です。自宅が被災し、行政の支援の重要性を目の当たりにしました。法学部に進学したのは、高校時代に大学の模擬授業で刑法の話聞く機会があり、面白さを感じたからです。大学在学中は、様々な自治体活動に積極的に参加しました。特に、地元の自治体の会計年度任用職員として新型コロナウイルスの業務に携わった時に、国の大きな政策に対して、国と市町村との間に立ち連絡・調整を行う県庁の役割に重要さを感じたため、県庁への就職を希望しました。そのほか、法学部主催の資格試験対策講座を活用して、2年次にビジネス実務法務検定2級、3年次に宅地建物取引士を取得しました。この資格は自治体での都市開発計画などにも活かされます。ここには挑戦を応援する制度がたくさんあります。積極的に活用し、自分の強みを伸ばしてください。

公務員





キャリアサポートセンターを利用して 必要なマナーを学びました

就職先 横浜市役所

父が警察官なので、自分も自然と公務員を目指して入学しました。3年次から本格的に始まった公務員試験対策課外講座は、警察・消防官を目指すコースと行政職を目指すコースの2つのコースがありましたが、視野を広げる目的もあって行政職のコースを選びました。おかげで公務員の仕事の多様さを知ることができ、区役所や市役所の就職説明会に足を運ぶようになりました。また、高校時代までは野球一筋で、社会常識に欠けていると自覚していたので、キャリアサポートセンターの講座に参加し、ビジネスマナーをゼロから学んだり、面接練習をしていただいたりしました。就職先に決まった横浜市は日本で一番大きな市です。高齢者のためのバリアフリー化の推進など、行政法ゼミで身に付けた知識を活用し、不自由を感じる市民の方が少しでも減るよう尽力したいです。



サポート体制が整った環境で 勉強にも就活にも集中できました

就職先 渋谷区役所

高校時代に地域のイベントにボランティアで参加し、高齢者や小さな子とコミュニケーションをとる楽しさを知りました。公務員であれば地域の人に寄り添えると感じ、入学前から公務員を目指していました。大学では、1年次から段階的に法律の知識を身に付けることができ、勉強で躓くことはありませんでした。力を入れていたのは刑法ゼミでの学びです。模擬裁判を通して検察、被告人、裁判官の役割を経験しながら、判例なども活用して実際に起きている事件について議論し合うのはとても新鮮でした。就職に関しても、3年次の春から法学部主催の公務員試験対策課外講座を利用し、数的処理などの苦手分野は問題集を何周もして出題パターンを覚えしました。面接はキャリアサポートセンターで10回ほど練習し、万全の体制で臨みました。立正大学法学部は授業、就職活動ともに力を入れやすい素敵な学部だと思います。

フィールドワークやインターンシップ、 大学祭実行委員と、充実していました

就職先 川崎市役所

高校時代の学部説明会で法律を身近に感じ、法学部への進学を決めました。ちょうど新型コロナの影響で、多くの方が職を失っていた時期です。将来への不安が大きかったので公務員を志望し、法学部があって就職支援が手厚い大学を調べ、立正大学にたどり着きました。座学で法律の奥深さに触れ、「フィールドワーク」の授業で行政書士事務所の仕事を体験したり、大学祭実行委員会として協賛金や運営費の獲得に奔走したりと、4年間は本当に充実した日々でした。所属していた商法ゼミではディベート形式で意見を交換するので、自分の意見を簡潔にまとめ他者の言葉に耳を傾ける習慣がつきました。川崎市は、環境問題に率先して取り組み、脱炭素先行地域に指定されている点が魅力で就職しました。市役所員としてはもちろん、一市民としての視点も持ちながら川崎市をよりよい市にしていきたいです。



品川区の行政評価委員会に 参加し、視野が広がりました

就職先 墨田区役所

授業では、法律がいかに身近で、一文一文にどれほど細かい意味が込められているかを知ることができ、社会問題に自然と目が向くようになりました。大学時代に最も印象に残っているのは、ゼミの先生に勧められて参加した品川区の行政評価委員会です。公募で選ばれた約10人の参加者と区役所の担当者、法律の専門家が同席する場が4回ほど設けられ、品川区の環境と防災政策について、評価点や改善策を検討しました。街を実際に歩いたり、学生ならではの視点で発言することによって、議論を活性化することができました。他の参加者や専門家の発言からは、多角的な視野を持つ重要性を実感しました。区役所では、担当部署が数年でローテーションし、幅広い業務経験が積めます。自分の性格にも向いていると感じたので、就職活動は区役所に絞りました。社会人になってからも、ここで得た経験を活かしていきたいです。





自由にカリキュラムが組み、 効率的に時間を利用できました

就職先 東京消防庁

学級委員長など人をまとめる役割が多かったので、中学の先生に警察官を勧められました。その後、コロナ禍で日常生活が簡単に壊れたことに衝撃を受け、“人の当たり前を守る”ために警察官になろうと決めました。こちらの法学部を選んだのは、行政法や刑事政策など警察官に有益な授業が豊富だったからです。ところが1年次のときに消防官の方とお話しする機会があり、消防官は、災害現場に駆けつけ被害を最小限に抑える、より一刻を争う職業だと感じました。少しでも人の命を繋ぎ止める職に就きたいと、進路を変更しました。公務員試験対策では、わからない問題はその日のうちに復習しました。立正大学はカリキュラムが自由に組めるので、週に1日は授業を入れず、体力作りなどにあてられたのも良かったです。消防官はまだまだ男性が多い厳しい世界です。良い意味でこだわらず、挑戦を恐れない社会人になりたいです。

剣道部で体を鍛え、 ゼミ活動で視野を広げました

就職先 警視庁

小学1年の時から通っていた剣道の道場に警察官関係者が多く、警察官が身近な存在でした。警察官になろうと具体的に意識したのは、高校の剣道部の先輩が立正大学法学部に入学してからです。大学の様子を詳しく聞くことができたので、自分もここに入学を決めました。大学では引き続き剣道部に入り、3年次に個人で全日本大会に出場、4年次には主将を務めました。学生主体で部活動を行うので、部活と授業を両立するため、計画的に物事を進めるように意識しました。4年間の活動を通して後輩指導などの経験ができ、人間的にも成長できた実感があります。授業では、国際人権法ゼミで、外国人労働者に対する企業の取り組みや、差別問題を深掘りしたことが印象に残っています。普段の生活では気にも止めていませんでしたが、この授業を機に、外国人労働者問題は自分の生活とは無縁ではないことに気付かされました。



課外講座

資格取得や公務員試験合格などの目標達成を支援するため、
法学部独自に各種の受験対策課外講座を開講しています。

課外講座の特色

- 目標に合わせて多様な講座が開設されています。
- 資格試験受験指導のプロによる授業をキャンパス内で受けられます。また、一部の模試の受験料を補助します。
- 外部の予備校に通うよりもはるかに安価で受講できます。
例)公務員講座の場合、受講料は外部の予備校の1/6～1/14程度におさえられています。
- 1つの資格を取得すると、次の講座の受講料が割引になります。(一部適用されない講座もあります。)
- 資格を取得すると難易度に応じた奨励金が付与されます。(課外講座を受講せずに資格を取得しても対象となります。)
- 目標を同じくする仲間と互いに刺激し合えます。

課外講座の種類(2024年度開講中のもの)

■公務員試験対策課外講座

2年次より始まる公務員入門課外講座と、それを踏まえての3年次の課外本講座が設置されています。4年次に、国家公務員一般職、地方上級職、裁判所事務官、国税専門官、警察官・消防官などの公務員試験合格をめざします。

■行政書士課外講座

官公庁と市民をつなぐ法律専門職である、行政書士の資格試験合格をめざします。この試験は、国家公務員一般職や地方上級試験と試験科目が類似しているため、これらの試験勉強の準備という点でも大きな意味を持ちます。

■宅建課外講座

宅地建物取引士資格試験(宅建)合格のための講座です。宅建は民法の勉強が中心で、不動産分野はもとより、金融その他多くの企業でも有用な資格です。

■民間就活向けサポート講座

大学生にとって大きな不安の種であろう就職活動。2・3年生を対象としたこの講座では、エントリーシートの書き方や面接の指導のほか、自信をもって就活に挑むために、受講生一人ひとりが自分の特質を理解し、どの業種・企業にマッチングするのを見極めるサポートを徹底します。

その他にも!

法学検定試験

法学に関する学力を客観的に評価する、わが国唯一の全国規模の検定試験です。企業の入社・配属時の参考資料等として、さまざまな場面で利用されており、立正大学法学部では1年次にベーシックコースを受験します。

法学検定試験に合格すると、一部の課外講座の受講料が割引されます。

実務家による指導(社会保険労務士)

法学部では第一線で活躍する社会保険労務士との共同研究会を開催。学生も参加できます。
この研究会の参加者の中には社会保険労務士試験に合格し、社会保険労務士として活躍している卒業生もいます。

※上記の、法学部主催の課外講座以外に、キャリアサポートセンター主催の課外講座(TOEIC講座、教員採用試験対策講座、簿記講座、秘書検定講座、MOS講座等)もあります。

サポート例

■キャリアサポートセンター

2023年度から在学生の就職活動をサポートする新たな取り組みが始まりました。

- オンラインでOB/OG訪問が完結する「ビズリーチ・キャンパス」
- 就職活動時に実践的に活用しやすい学びを目指す「課題解決型インターンシップ」

このほか企業の担当者による「業界説明会」、就職活動に有利とされている各種資格の対策講座「スキル開発講座」等も充実しています。また本学には専門のキャリアアカウンセラーが常駐しており、進路や就職について対面・オンラインいずれでも相談することが可能です。

■学修の基礎Ⅱ

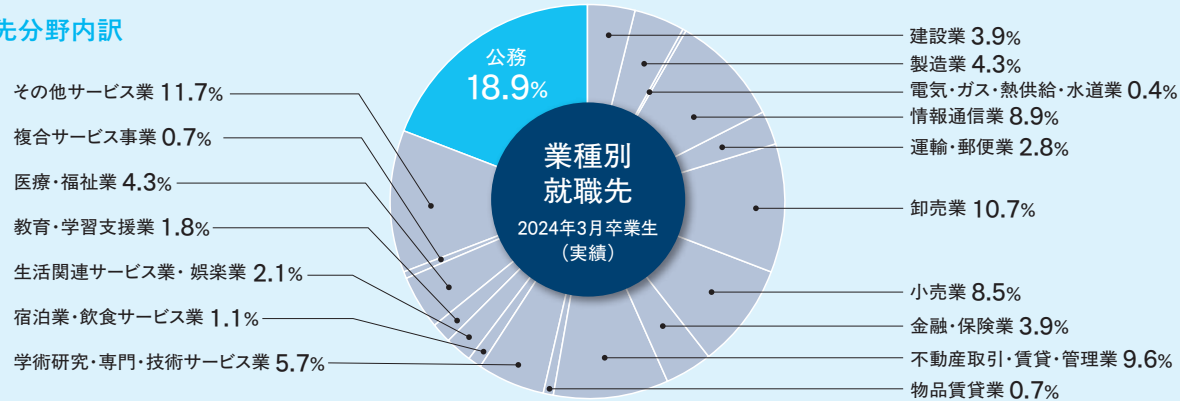
法学部での学びを将来、職場や社会一般でどのように活かしていくかを考えるための授業です。社会で求められる人材像に近づくため、法知識やゼミ、法律関係資格(宅建、社労士、司法書士、行政書士等)の活かし方について、その分野で活躍するゲストを招きつつ、講義します。

■業界セミナー

キャリアサポートセンターが主催するものに加え、法学部では独自に、公務員、司法書士、行政書士、社労士、銀行員等として活躍する卒業生を招き、先輩からさまざまなアドバイスを受ける機会を設けています。

卒業後の進路

■就職先分野内訳



■主な進路・就職実績

官公庁	法務省／国土交通省／厚生労働省／総務省／防衛省／東京国税局(国税専門官)／財務省関東財務局(財務専門官)／東京労働局(労働基準監督官)／神奈川県労働局(労働基準監督官)／千葉地方裁判所／東京地方検察庁(検察事務官)／さいたま地方検察庁(検察事務官)／東京都／神奈川県／千葉県／埼玉県／横浜市／川崎市／千葉市／さいたま市／品川区／渋谷区／中央区／世田谷区／文京区／練馬区／江戸川区／墨田区／葛飾区／足立区／流山市／松戸市／川越市／越谷市／警視庁／神奈川県警察／千葉県警察／埼玉県警察／茨城県警察／東京消防庁／千葉市消防局／さいたま市消防局
金融・保険	(株)ゆうちょ銀行／(株)千葉銀行／(株)京葉銀行／(株)千葉興業銀行／(株)栃木銀行／(株)武蔵野銀行／(株)筑波銀行／(株)東和銀行／(株)香川銀行／(株)七十七銀行／auじぶん銀行(株)／大和証券(株)／東海東京フィナンシャルホールディングス(株)／いちよし証券(株)／むさし証券(株)／水戸証券(株)／日本生命保険相互会社／ジブラルタ生命保険(株)／朝日生命保険相互会社／太陽生命保険(株)／日新火災海上保険(株)／埼玉縣信用金庫／横浜信用金庫／川崎信用金庫／城北信用金庫／山梨信用金庫／(株)ジャックス
不動産・住宅	積水ハウス(株)／住友不動産販売(株)／三井住友トラスト不動産(株)／三井不動産リアルティ(株)／三井ホーム(株)／野村不動産アーバンネット(株)／東急リバブル(株)／スターツコーポレートサービス(株)／積和不動産(株)／(株)大京穴吹不動産／(株)タカラレーベン／(株)一条工務店／(株)オープンハウスグループ／ボラス(株)
製造ほか	(株)SUBARU／スズキ(株)／テルモ(株)／シスメックス(株)／(株)富士薬品／鳥居薬品(株)／東洋水産(株)／大建工業(株)
運輸・流通・商社・サービス・情報通信	西日本鉄道(株)／日本郵便(株)／SGホールディングス(株)／青山商事(株)／(株)三越伊勢丹／(株)松屋／(株)ペイシア／(株)ノジマ／(株)しまむら／(株)ニトリ／(株)ヤオコー／菱洋エレクトロ(株)／(株)モスフードサービス／ANAエアポートサービス(株)／日本ヒューレット・パッカード(株)／(株)マイナビ／エンジャパン(株)／(株)帝国データバンク／富士ソフト(株)／(株)オービックビジネスコンサルタント
各種法人	さいたま商工会議所／日本私法支援センター(法テラス)／(学)立正大学学園／日本年金機構／(福)佑啓会／(福)泉陽会
進学	慶応義塾大学大学院／東京都立大学法科大学院／中央大学法科大学院

教職課程と部活に打ち込み、
自分のスキルを磨きました

■就職先 川崎市教育委員会

児童一人一人に寄り添ってくださった小学校の担任に憧れ、教員を目指しました。この4年間は教員採用試験の勉強に最も力を入れ、授業の合間に自習スペースや図書館を活用しました。図書館には教科書や参考書などが揃っていてありがたかったです。教職課程の先生方に面接指導などもいただき、無事に中学校の社会と高校の地理歴史・公民の教員免許を取得できました。勉強以外ではバドミントン部に所属し、練習に打ち込んだり、先輩後輩との交流を深めたりと、大学生活を充実させることができました。多くの人に支えられて今の自分があるので、これから出会う生徒たちにも「1人で頑張らず、ほかの人を頼っていいんだよ」と伝えていきたいです。



中学・高校
教諭

「農業フィールドワーク」が転機となり
IT業界の可能性に惹かれました

■就職先 富士ソフト株式会社

社会学・教育学ゼミの授業で「農業フィールドワーク」に参加し、農業をはじめ、あらゆる業界で人手不足が深刻化していると感じました。この経験から、IT技術の業務効率化の分野で人手不足を解消したいと思い、IT業界に就職しました。「刑事政策」の授業も印象的でした。私たちはつい被害者目線で事件を捉えがちですが、犯罪に至った方々の立場を学び、自分の価値観が大きく変わりました。高校時代の私は、なんとなく公務員を目指して法学部に入学しましたが、将来をもっと考えることでこの4年を一層有意義なものにできると 생각합니다。進路選択にあたっては、将来の夢を真剣に見据えることが重要だと思います。



1学年1資格取得を目標に、
大学でできることに全力で取り組みました

■就職先 株式会社帝国データバンク

法治国家の日本で法律を学んでおくことは将来きっと役に立つと思い、法学部を志しました。立正大学の決め手は資格取得講座とキャリアサポート体制の充実、立地の良さです。限られた時間を有効に使うため、毎年1つ資格を取るという目標を立て、資格の勉強、講義の予習復習、レポートなどに優先順位をつけて計画的に取り組みました。その結果、学部で2位の好成績を取る事ができたのは嬉しかったです。3年次までは多くの時間を勉強に費やしたので、就職活動に区切りがついてから友人たちとの時間を大切にしました。就職先は国内の会社情報を扱う企業です。正確なデータを集め適切な企業間取引を提案することで、日本経済の底上げに貢献したいです。



刑事訴訟法や経済学など、
将来を決める授業に出会えました

■就職先 株式会社京葉銀行

中学の授業で冤罪を知ったことがきっかけで法律に興味を持ちました。実際に法学部に入ると、「刑事訴訟法」の授業で具体的に冤罪事件が起こる背景について考える機会もあり、法律の幅広さや身近さを感じられました。法律学には難しい部分もありましたが、入学前に想像していた“六法全書の丸暗記”などは必要ありませんでした。就職先に金融業界を選んだのは、公認会計士の方が講義をしてくださった経済学の授業で刺激を受け、金融面で人々をサポートしたいと考えたからです。お客さま一人ひとりの課題やニーズに対し、期待を超えるプラスαの価値の提供し、パートナーとして寄り添える社会人になりたいです。



多くの人と信頼関係を築き、
将来は会社を興したいです

■就職先 東急リバブル株式会社

進路に悩んでいた高校3年次に、世の中のルール(法律)も知らずに生活していることに違和感を覚え、法学部を目指しました。立正大学法学部は学修を段階的に進める「ステップアップ方式」を採用していたので、安心して進学できました。将来の目標が会社の設立なので、ゼミは会社法ゼミを選びました。このゼミで、皆が知っている大企業が抱えている具体的な問題について、会社法の側面から自分なりに分析したことはとても面白かったです。就活ではキャリアサポート主催の説明会を活用し、インターンも経験しました。大学で身につけた法律の知識と、人と信頼関係が構築できるという自分の強みが活かし、不動産業界で社会人として成長したいです。

